

第16節 農業高校の体質改善

1 概要

昭和39年度は、県単独事業3か年計画も終了して、充実した施設・設備のもとに指導内容、方法の改善について検討を加え、畜産ならびに園芸学習の手引きを編集して学力の向上に努力を傾注した。このことは県内の域地性をじゅうぶん取り入れながら基本的領域を共通におさえて統一したい念願からである。また、国の農業基本法に基づく農業構造改善事業を推進する農業後継者の養成を目指し、農業高校の地域農業に果たす役割が明確化され、農業経営技術の習得を中心として、企業的経営円の栽培、飼育技術の学習が主眼となってきた。

農業教育が時代の進歩に即応するためには、基礎的学習はもとより高度企業経営についての畜産、果樹、野菜等個々の分野がとりあげられなければならない。このため機械化された省力的飼育・栽培方式による学習や地域に立脚した経営能力を実習体験させなければならない。

これがため各学校においては、精選された指導内容と計画を樹立して重点的かつ一貫性のある指導のできるような施設設備の整備充実をはるよう計画する必要がある。近代化され、省力化される施設・設備が充実され生産される過程において1か所でも不備な点が生ずることのないような体系の確立が望まれる。これらの施設・設備の活用を多くの角度から研究し、実習するところに経営能力、技術がつかわれ、企業農業としての生産に対する総合能力を養うことができる。

また、整備充実された施設設備を活用した新しい指導法の研究が大きな課題であり、精選された指導項目の選換が各学校の課題である。さらには、農場の運営と実験実習との関連性、教室授業と農場学習とのあり方等についてもまだまだ多くの問題点が包蔵されている。

学校教育が、主産地形成、農業構造改善事業等地域農業のすすみゆく姿に対処して、基礎的、科学的知識技術経営能力をあたえる場であり、応用する能力を養う場でなければならない。同時に教育に係るものとして単に施設・設備のため、機械力のために動かされて教育本来の姿に徹しきれないとの声を聞くが、限られた単位実習時間のなかで実践し、体験し、理解させることを解率的に体系化し指導しようとする研究意欲を盛り上げてゆくことこそ農業教育者に課せられた課題である。また体質改善を実施することによって改善充実をはかってきた。

2 実施状況

(1) 文部省高等学校農業教育近代化促進費補助事業対象校

- ア 福島農蚕高等学校（第3年次）
果樹園芸を主として、近郊市野菜、温室、ビニール等施設園芸を充実強化した。
- イ 相馬農業高等学校（第3次）
畜産科鶏舎を中心として、機械化作業体系の確立、機動力の充実をはかった。
- ウ 岩瀬農業高等学校（第2年次）
畜産科、大中家畜の導入による改良、省力機械化関係の充実強化をはかった。
- エ 会津農林高等学校（第2年次）
寒冷地園芸の充実強化のため、機械力の導入をはかり果樹園の合理化栽培、ガラス室の設置をはかった。
- オ 磐城農業高等学校（第2年次）
都市近郊園芸振興のため、温室、ビニールハウスの拡充、果樹園灌水施設設備の充実をはかった。
- カ 小高農業高等学校（第1年次）
畜産科、豚舎の拡充種豚の導入、舎内設備の近代化について充実強化をはかった。
- キ 東白川商高等学校（第2年次）
県南の立地条件から園芸の充実をはかり、温室、ビニールの建設、内部設備の近代化につとめた。

(2) 教職員の研修

畜産、園芸科教員7名を板遣して、新しい栽培、飼育に関する実験実習による技術の習得、経営技術について全般的に研究し、資質の向上をはかった。

- ア 研修期間 30日間
- イ 研修派遣先 神奈川県畜産試験場 4名
農林省園芸試験場 3名

39年度近代化

	施設	設備
相馬農業	鶏舎 S40坪 1,740千円	2,100千円 冷蔵庫1, 小型四輪車1, ダンブトレーラー1, フロ ント, ローダープロテクシ ョンフレーム1
福島農蚕	温室 S30坪 貯蔵庫 S13坪 2,322千円	1,500千円 自動選菜機1, ビニールハ ウス1, スプリンクラー
岩瀬農業	豚舎 S30坪 1,620千円	1,800千円 種豚201, 乳牛1, 自動給 餅器31, 豚用ケージウオー ターカップ各10
磐城農業	温室 S30坪 1,620千円	1,050千円 ビニールハウス1, スプリ ンクラー, 果樹園灌水防除 設備
津会農林	ガラス室 S 30坪 1,599千円	1,050千円 中型トラクター1 ファームスプレヤー1